

朝日生命のDX戦略を下支えする次世代プラットフォームの運用を開始
～AWSのクラウドサービスを活用し、富士通、クレスコが構築を支援～

朝日生命保険相互会社（社長：木村博紀、以下「朝日生命」）は、3ヵ年の新中期経営計画「Advance～The road to 2030～*1」を策定し、その実行に向けてDX*2戦略を成長ドライバーの一つと位置付けております。今般、そのDX戦略を下支えする次世代プラットフォームの運用を開始しましたので、お知らせいたします。

次世代プラットフォームは、アマゾン ウェブ サービス（以下「AWS」）のクラウドサービスを活用し、富士通株式会社（社長：時田隆仁、以下「富士通」）および、株式会社クレスコ（社長：根元浩幸、以下「クレスコ」）の支援のもと構築しました。

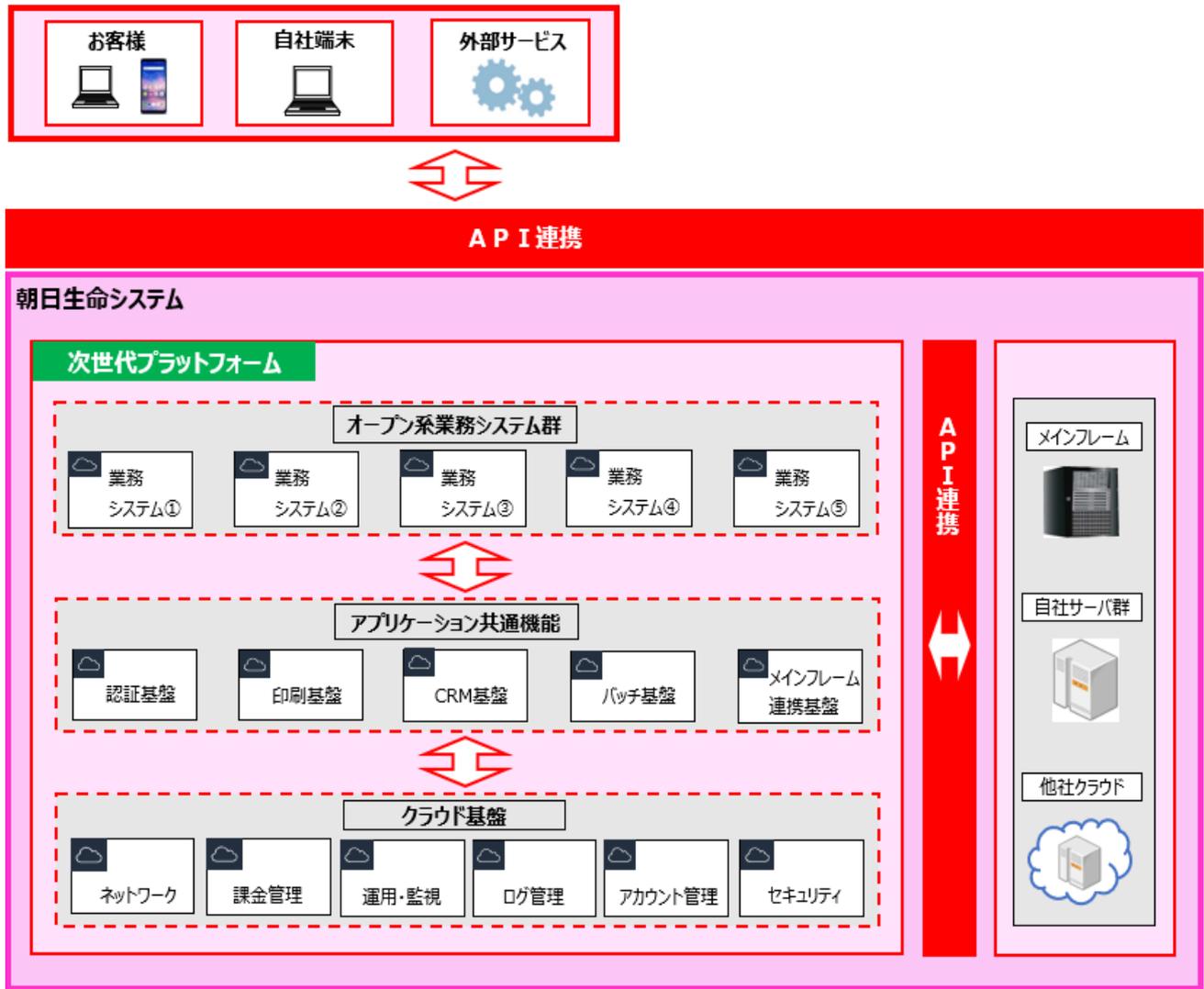
次世代プラットフォームは、各業務システムのインフラ機能を統合的に管理する「クラウド基盤」と、各業務システムのアプリケーション機能を共通化した「アプリケーション共通機能*3」から構成されており、それらを土台に各業務システムが稼働することにより、業務固有のアプリケーション開発のみに特化することが可能となり、開発・運用の効率化が見込めます。

外部サービスや既存システムとの連携にはAPI*4連携機能を利用しており、タイムリーなシステム間連携が可能となります。また、システム開発の手続きにおいては、システムを設計・開発する際の方針をまとめたガイドラインを策定し、DevOps*5を前提とした開発の標準化を図っています。

朝日生命は今後、新しいシステムの開発や、営業支援システムなどの自前の業務システムを次世代プラットフォームへ順次移行していきます。それにより、ビジネス要件に対応する業務システムのスピード開発、システム運用の効率化・省力化を図り、新中期経営計画におけるDX戦略を通じて「お客様への新たな付加価値の提供」「新たなビジネスモデルの創出」を実現していきます。

また、朝日生命は、企業のDX推進における優れたノウハウを持つ富士通およびクレスコをDXパートナーとして、引き続き両社の支援のもと、DX戦略を推進していきます。

図1：次世代プラットフォームのイメージ図



以上

*1 新中期経営計画「Advance～The road to 2030～」については、4月1日のニュースリリース (https://www.asahi-life.co.jp/company/newsrelease/20210401_01.pdf) をご覧ください。

*2 デジタルトランスフォーメーション

*3 現在構築中であり、3ヵ年で完成予定

*4 アプリケーション・プログラミング・インターフェース

*5 ソフトウェアの開発担当と導入・運用担当が密接に協力する体制を構築し、ソフトウェアの導入や更新を迅速に進めること。“Development”（開発）と“Operations”（運用）を組み合わせた造語

* アマゾン ウェブ サービス、AWS は、米国その他の諸国における、Amazon.com, Inc.またはその関連会社の商標です。